

寄書

九州聯合圖書展覽會を觀る

福岡の人

三月二十七日より三日間、佐賀師範學校に於て九州聯合圖書展覽會が開催された。今回は太平洋畫會、白馬會の作家の作品も出品されるとの事であつたので、展覽會の類はあまり觀たことのない私には、之が非常な幸福であつた。

私は二十七日に佐賀師範學校に行つた。小、中學校生徒の作品には一寸と眼を通したばかりで、參考品の室に入つた。第一に私の眼に止つたのは、大下先生の水彩畫、それから眞野、瀧澤、八木、寺田、水野諸先生の畫が列んで居る。之等の作品については、私等の喋々を要するまでもない、が此の田舎漢に痛切に感じた事は、其の作品の何れもが、此の複雑な自然を如何に大膽に觀て、之を如何に大膽に畫いてあつたと云ふ事である。成程、田舎者の筆はイデケてゐる、細かい處ばかりにこそくして大體の調子を過つてゐる。私は此に於て大に得るところがあつた。そして之が大いに私に新しい希望を與へた。

大下先生の作品は唯一點であつた。湖の岸に美しい黄色を彩つた葉の木がある。遠山が紫色に湖の向ふに立つてゐる。眞野先生數點。大部分は花瓶に色々の花の生けてある靜物畫であつた。其他スケッチも二三點見えた。花は相變らず得意なものであつた。其他の諸先生のは皆ワットマン四切のスケッチやマタ

デーで、各平均六七點、スケッチには面白いのが多く、ステデ
ーは益するところが多かつた。

それから、白馬會、太平洋畫會の油繪が貳拾點以上、大作も大分見えた。美術學校出品の日本畫もあつた。私は唯感嘆するのみで、之等の作品に就て言を發するだけの勇氣がなかつた。

私は四五時間會場に立つてゐた。觀覽者も多かつた。其人等の色々の批評も聞いた。そして午後目の光の淡い時に會場を出た。

三越洋畫展覽會を見て

大阪 富岡 洗帆

雨で寫生に行けない日を利用して三越へ行つた。會場は例の店の奥なので、僕等のやうな書生は下足迄預けるのを一寸氣兼ね思ふ。光つた板の間へ泥足の形が付はすまいかとぬき足して上つた。太平洋畫會の出品丈けに水彩畫が多い、それに小豆島の寫生畫があるので錦上更に花だ。油繪水彩と見に行くと、大下先生のがあつた『麓』と、處で僕が「これは『みづゑ』に出て居たよ」と同行のM君とS君に云ふ、二人共『みづゑ』を見て居ないので。外國人が二人觀に來た、早口に何か云つて氣に入つたのが無いのか急ぎ足に行つてしまふ、僕は赤城氏の『午後四時』藤島氏の『銚子海岸』瀧澤氏の『雨後の夕』等の前で、さつき様な事を繰かへした。S君は『みづゑ』を持って來ればよかつたね」と云ふ、「どれが出てるか知らなかつたから」と云つた。

雨の故か見に来る人があまり無い、鹿子木氏のクレオンの西洋婦人があまり好いから寫してやらうと思つてスケッチブックを出す、後から足音、吃驚して見るとS君である。隣室からパチ／＼と算盤の音がして居る。雨はまだ止まない様だ、二三回も見まはつたので歸つた、今日は寫生にも行けなかつたが、より以上益する處があつた、僕は三越呉服店が、自己の營業に有利の爲であるにもせよ、斯道不振の當地に毎年斯かる催しあるを喜ぶ者である。

隨感錄

武州浦和在西堀

石川幸三郎

○繪と畫。此の頃はよく繪畫展覽會と云ふ物が流行る。之れは世間の人が漸く一般に繪畫と云ふ物に注意する結果であつて、藝苑のために甚だ喜ぶべき現象である。

所で大抵な人は繪畫といふ字は讀めるが、其の意味は知らぬ者が多い。て其の意味は同一で單にゑと云ふだけだと思つて居る。而し繪と畫とは自ら別である。或る本を見ると繪とは美しく繪具を以て彩色したものを云ひ。畫とはあまり彩色の這入つて居ない、筆力を主としたものを言ふのだと書いてある。

○寫生の材料。一日一生懸命にスケッチグラウンドを探して居てもちつとも書いてこない人が居る。試に聞いて見ると皆異句同音に、好材料がないのだと云ふ。成程もつとも思はれるが、それは其の人々が好材料を見つけないと云ふことを證明してゐるものだ。寫生と云ふものは何處までも自然に頼ら

ねばならぬ。自然は即ち寫生の好材料であつて、自然と云ふものは至る所に存在してゐるのだ。であるから自然を眞にうつした者が眞の繪である。木一本でも眞にうつせばそれは眞の繪として充分價值あるものだ。

兎も角寫生の材料がないと云ふて悲觀して居る者は材料がないのでなくて見えぬのだ。

○圖畫と性格、圖畫及び書によつて其の人の性格や勤惰の状態が、歴々とわかるものだ。殊に畫に於て充分是れを見てゐることが出来る。性格が活潑で少しもやましい所のない人が畫いた畫は何處となくイキ／＼して居て心持が好い。見てあきが來ない。所が之れに反して柔弱な心にわだかまりのある人の畫いた畫は何處かにいやな、下品な所がある。見て不愉快な感を人に與へる。殊に油繪に於て往々かういふ物を見掛ける。

それから其の人が懸命に畫いたか又は厭々ながら畫いたかは一見して直ぐわかる。高尚な人格を持つて居る人の畫いた畫は高尚で下品な人の畫いた畫はどう見ても下品である。

○曲線と直線。繪畫に於て曲線の直線よりも優つて居ると云ふ説は、動かす事の出來ぬ一般美術家の定説である。であるから下等な物即ち無機物から、高等な物即ち有機物に至る迄の階級に於ては、著しく曲線の差がある。其の中で最も曲線美なのは云ふまでもなく、萬物の靈長たる人間である。だから西洋畫に於て近來裸體々と騒ぐのも無理もないことである。

○畫と道德及び風教。畫は美術的趣味の物であるから少しも道